

子どもとその親の外出をとりまく環境

研究開発室 水野 映子

—要旨—

- ① 子どもとその親の外出をとりまく環境に関する課題を探るため、小学3年生以下の子どもを持つ父母を対象に、外出の現状や意向、評価などに関する調査をおこなった。
- ② 子どもとの外出先は、小学1～3年生の親に比べ未就学児の親では「役所」「郵便局、銀行」といった義務的な場所が多く、「映画館、劇場」「図書館」などの娯楽・教養的な場所が少ない。
- ③ 子どもとの外出時に感じたことがある不満は、母親・父親ともに「トイレが利用しにくい」と「子ども連れて利用すると費用がかかる」が多い。
- ④ 子どもとの外出時に何らかの不満を感じたことがある割合や、子どもとの外出がしやすいと思わない割合は、父親よりも母親、小学1～3年生の親より未就学児の親で高い。
- ⑤ 父親に比べて母親、特に未就学児の母親では、「自分のみでの外出」の機会を増やしたいという割合が高い。

1. 背景と目的

子育てしやすい社会を実現するために、子どもの生活の場を整備することは重要な課題の一つとなっている。近年、バリアフリーやユニバーサルデザインといった考え方の普及にとともに、製品や空間、サービスなどのあり方を考えるうえで、障害者や高齢者などとともに、子どもやその親にとっての利用しやすさが配慮されつつある。しかし、それらが子育て中の親にとって満足のいくものになっているかどうかは、必ずしも明らかではない。

筆者は、当研究所が実施した調査（図表1）の中で、子どもが屋内外で生活する上での環境に関する質問項目を設け、そのうち屋内については既に報告した*1。そこで、本稿では子どもとその親の外出をとりまく環境に焦点を当て、子どもを持つ親の外出の現状や意向、評価などを明らかにする。

なお、本稿で用いた質問項目はすべて、小学3年生以下の子ども（複数いる場合は最年少の子ども1人）について、該当する子どもを持つ父母にたずねている。以下で「子ども」という場合には、この子どもを指す。

図表1 調査概要

調査名	子どもの生活に関するアンケート調査
調査対象	当研究所生活調査モニターのうち、中学3年生までの子どもを持つ父母1,078組、およびその子どものうち小学4年生～中学3年生のもの（該当子が複数いる場合は最年長子のみ）567人
有効回収数(率)	父親：927人（86.0%）、母親：930人（86.3%）、子ども：548人（96.6%） ※ただし本稿では、小学3年生以下の子どもを持つ父親609人と母親610人の回答のみを使用
調査方法	郵送調査
調査時期	2007年3月

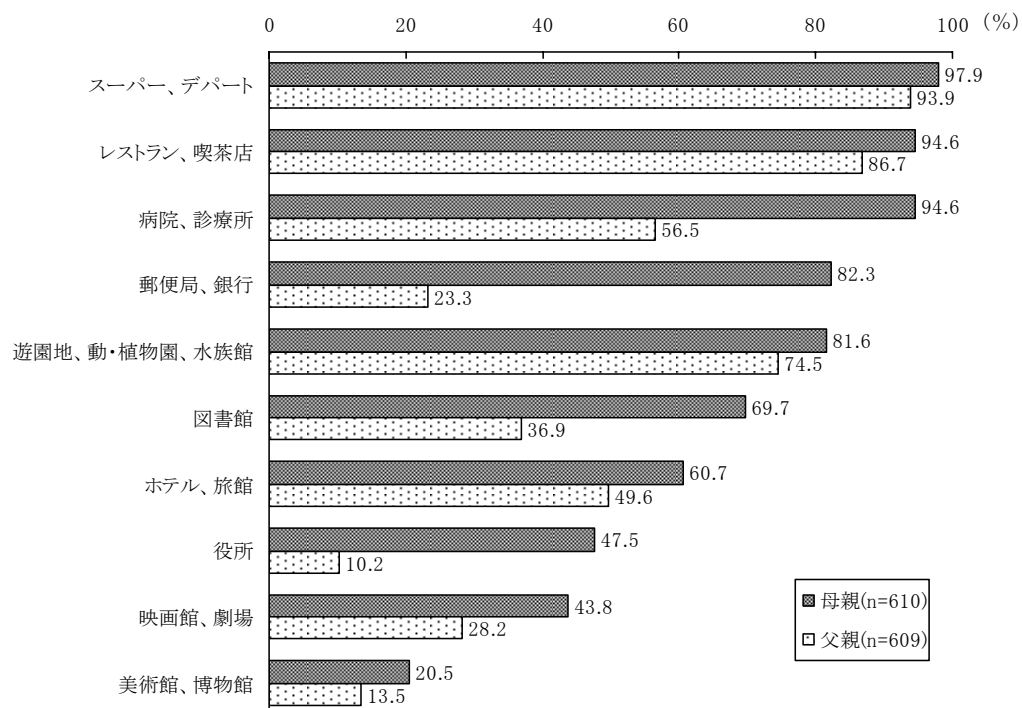
2. 子ども連れでの外出先

この1年間に、子どもと行ったことがある場所を複数回答でたずねた。

図表2の通り、母親では「スーパー、デパート」（97.9%）、「レストラン、喫茶店」（94.6%）、「病院、診療所」（94.6%）が9割を超えており、次いで、「郵便局、銀行」（82.3%）、「遊園地、動・植物園、水族館」（81.6%）が8割強となっている。

父親の上位2位は、母親と同様に「スーパー、デパート」（93.9%）、「レストラン、喫茶店」（86.7%）であるが、第3位には「遊園地、動・植物園、水族館」（74.5%）があがっている。母親と比較すると、すべての項目において父親が母親を下回っている。特に、「病院、診療所」「郵便局、銀行」「役所」のようにレジャー性の低い場所に父親が行った割合は、母親に比べてかなり低い。

図表2 子どもと過去1年間に行った場所＜複数回答＞



次に図表3には、各場所へ子どもと一緒にいった割合を、就学状況別に表とグラフに示す。この結果から、子どもと行く場所は次の①～③のタイプに分けられる。

①のタイプは、小学1～3年生の親に比べ未就学児の親の割合の方が高い場所であり、「郵便局、銀行」「役所」「病院、診療所」という義務的な場所がこれに当てはまる。このうち、「郵便局、銀行」と「役所」は母親で、「病院、診療所」は父親で、就学状況による差が特に大きい。

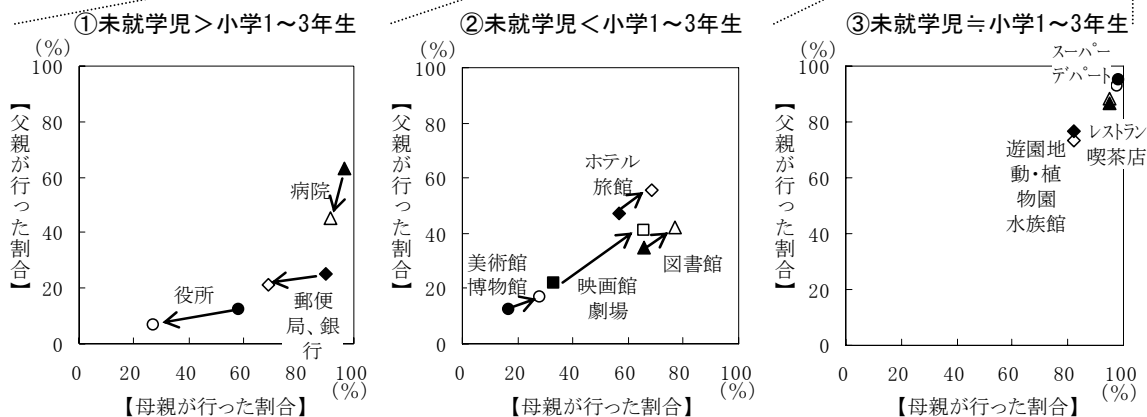
これとは逆に②のタイプは、未就学児の親に比べ小学1～3年生の親の割合の方が高い場所である。「図書館」「ホテル、旅館」「映画館、劇場」「美術館、博物館」といった娯楽・教育的な場所がこれに当てはまる。子どもが成長するにつれ、子どもとの外出場所は①のタイプから②のタイプに移っていくと考えられる。

③のタイプは、子どもの就学状況にかかわらず母親・父親ともに行く割合が高い場所である。「スーパー、デパート」「レストラン、喫茶店」という日常的な場所や、「遊園地、動物園、水族館」のように未就学児でも楽しめる娯楽施設が当てはまる。

図表3 子どもと過去1年間に行った場所(就学状況別)＜複数回答＞

		郵便局、銀行	役所	病院、診療所	図書館	ホテル、旅館	映画館、劇場	美術館、博物館	スーパー、デパート	レストラン、喫茶店	遊園地、動物園、水族館
母親	未就学児(n=393)	89.6	58.0	96.7	65.6	57.0	33.3	17.0	98.5	94.9	81.9
	小学1～3年生(n=205)	68.8	27.3	91.7	77.1	68.3	65.9	28.3	97.6	95.1	82.0
	差(未就学児－小学1～3年生) ^{注1}	20.8	30.7	5.0	-11.4	-11.3	-32.5	-11.2	0.9	-0.2	0.0
父親	未就学児(n=387)	25.3	12.4	63.0	34.6	47.3	22.0	12.1	95.1	86.6	76.7
	小学1～3年生(n=209)	21.1	6.7	45.0	42.1	55.5	41.1	16.7	92.8	88.5	73.2
	差(未就学児－小学1～3年生) ^{注1}	4.3	5.7	18.1	-7.5	-8.2	-19.2	-4.6	2.3	-2.0	3.5

(単位:%)



注1:10ポイント以上の差がある場合にはゴシック体で表示

注2:グラフ中の黒い印(●◆▲■)は未就学児の親、白い印(○◇△□)は小学1～3年生の親の値であることを示す

3. 子どもとの外出時の不満

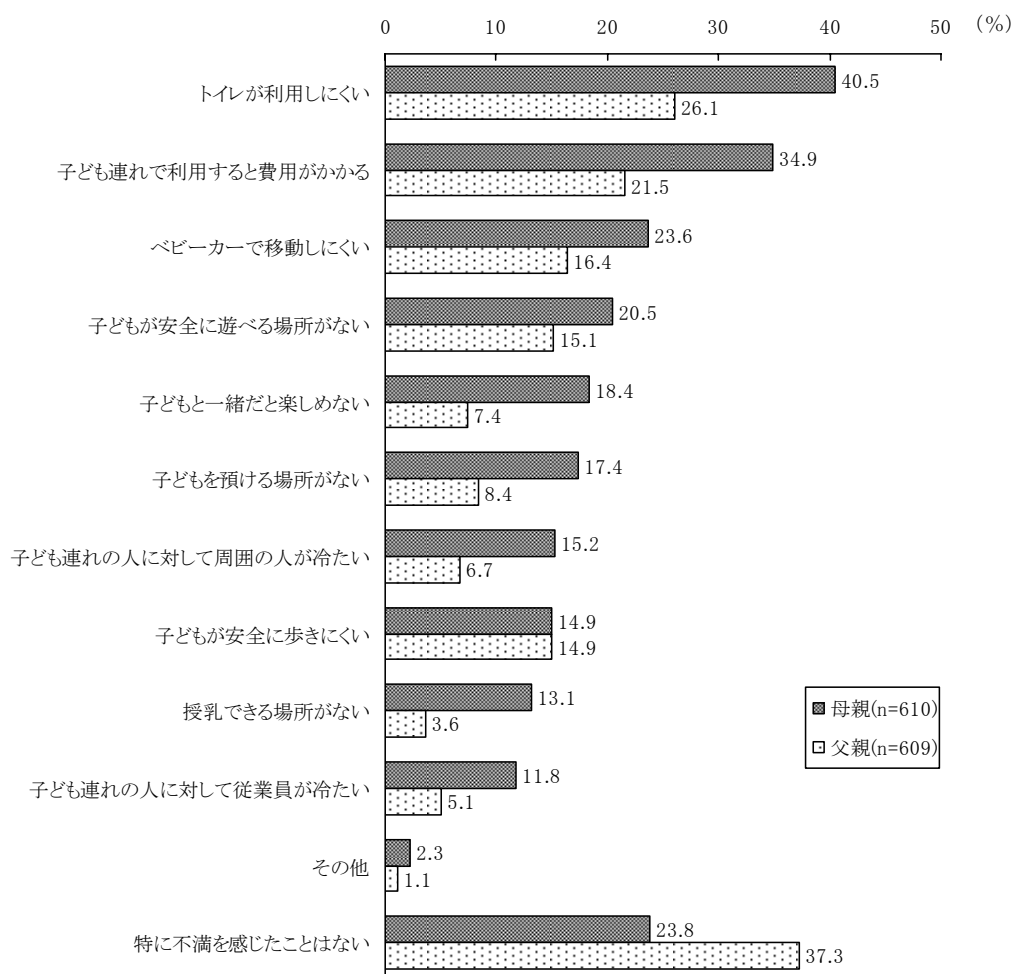
前章であげた施設へ子どもと一緒にいった際に感じたことのある不満をたずねた。

図表4の通り、母親で不満を感じたことのある割合が最も高いのは「トイレが利用しにくい」(40.5%)であり、次いで「子ども連れで利用すると費用がかかる」(34.9%)、「ベビーカーで移動しにくい」(23.6%)である。

父親で不満を感じたことのある割合が高い上位3項目は、母親と同様に「トイレが利用しにくい」(26.1%)、「子ども連れで利用すると費用がかかる」(21.5%)、「ベビーカーで移動しにくい」(16.4%)である。

母親と父親とを比べると、「特に不満を感じたことはない」と答えた割合は、母親では23.8%、父親では37.3%であり、母親の方がかなり低い。一方、他のほとんどの項目の割合は母親の方が高くなっている。つまり、母親の方が不満を感じている割合が全体的に高い。

図表4 子どもとの外出時の不満<複数回答>



図表5で就学状況別にみると、母親では「子ども連れで利用すると費用がかかる」以外の項目においては、子どもが小学1～3年生の場合よりも未就学児の場合の方が不満を感じた割合が高い。特に、「トイレが利用しにくい」「ベビーカーで移動しにくい」における差は大きい。

父親でもやはりほとんどの項目において、子どもが小学1～3年生の場合よりも未就学児の場合の方が不満を感じた割合が高い。両者の差が大きい項目も母親と同様に「トイレが利用しにくい」「ベビーカーで移動しにくい」である。

ただし、母親、父親ともに「子ども連れで利用すると費用がかかる」という不満を感じた割合は、子どもが未就学児の場合よりも小学1～3年生の場合の方が高い。子どもが就学すると、施設の利用料やそこに行くまでの交通費が高くなることなどが原因と思われる。

図表5 子どもとの外出時の不満(就学状況別、都市規模別)＜複数回答＞

(単位:%)

			トイレが利用しにくい	子ども連れで利用すると費用がかかる	ベビーカーで移動しにくい	子どもが安全に遊べる場所がない	子どもと一緒に遊ぶ場所がない	子どもを預ける場所がない	子ども連れの人に對して周囲の人が冷たい	子どもが安全に歩きにくい	授乳できる場所がない	子ども連れの人に對して従業員が冷たい	その他	特に不満を感じたことはない
就学状況別	母親	未就学児 (n=393)	50.6	32.1	32.3	23.4	21.1	21.6	19.1	18.6	18.8	14.0	3.3	16.8
		小学1～3年生 (n=205)	21.0	40.5	6.3	14.1	12.7	8.3	7.8	7.8	2.4	6.8	0.5	38.0
		差(未就学児－小学1～3年生) ^注	29.7	-8.4	26.0	9.3	8.4	13.3	11.3	10.8	16.4	7.2	2.8	-21.3
	父親	未就学児 (n=387)	32.8	19.9	23.0	18.6	9.6	9.3	8.5	18.1	5.4	4.7	1.6	31.3
		小学1～3年生 (n=209)	12.4	24.9	3.3	8.6	3.8	6.7	3.3	9.6	0.0	5.7	0.5	49.8
		差(未就学児－小学1～3年生) ^注	20.4	-5.0	19.6	10.0	5.7	2.6	5.2	8.5	5.4	-1.1	1.1	-18.5
都市規模別 (母親のみ)	大都市(n=179)	39.7	40.8	27.4	21.8	20.7	19.0	21.2	13.4	12.3	11.7	2.2	21.8	
	小都市(n=428)	40.7	32.7	22.2	20.1	17.5	16.6	12.9	15.7	13.6	11.9	2.3	24.5	
	差(大都市－小都市) ^注	-1.0	8.1	5.2	1.7	3.1	2.4	8.4	-2.2	-1.3	-0.2	-0.1	-2.7	

注:10ポイント以上の差がある場合にはゴシック体で表示

母親の不満について都市規模別にみると、ほとんどの項目においては差がないが、「子ども連れで利用すると費用がかかる」と「子ども連れの人に対して周囲の人が冷たい」という不満を感じる割合については、大都市（東京都区部・政令指定都市）の居住者の方が小都市（政令指定都市以外の市・町村）の居住者よりも8ポイント程度高い。小都市に比べ大都市では、外出時に何かとお金がかかることや、子どもに対する周囲の理解が低いことなどが理由として考えられる。

なお、父親の不満を都市規模別にみた場合、大都市と小都市との間で5ポイント以上の差はない（図表省略）。

4. 子ども連れでの外出しやすさ

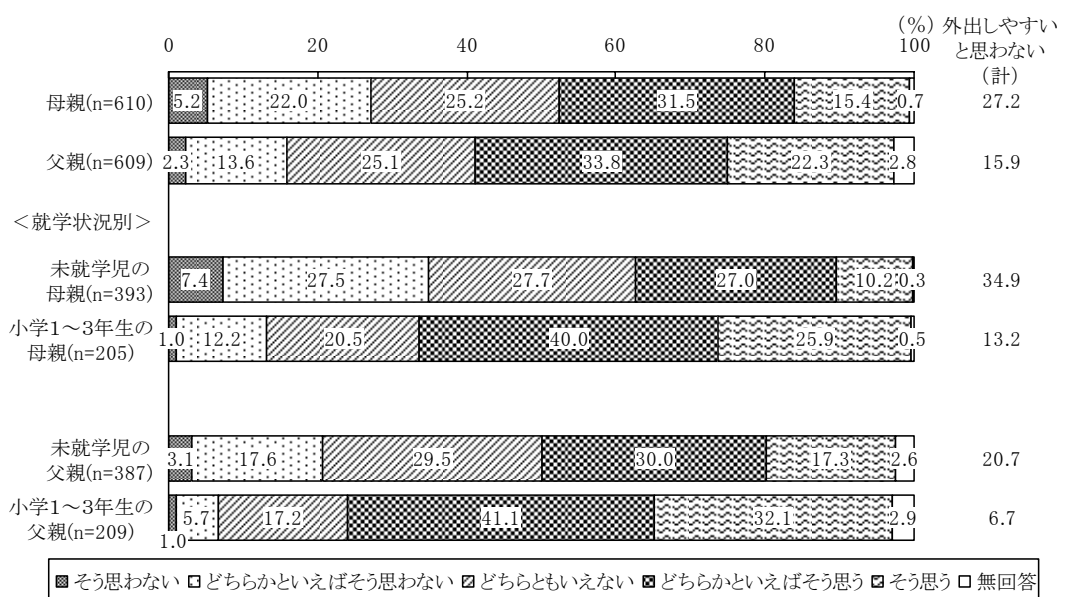
子どもと一緒に外出がしやすいと思うかをたずねた。

図表6の通り、外出しやすいと思わない（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）と答えた割合は母親では27.2%、父親では15.9%であり、母親の方が子ども連れで外出しにくいと感じている。

就学状況別にみると、母親・父親ともに子どもが小学1～3年生の場合よりも未就学児の場合の方が、外出しやすいと思わないと答えた割合がかなり高い。特に、未就学児の母親では、34.9%が外出しやすいと思わないと答えている。

子どもとの外出がしやすいと思わない人は、全体的にはさほど多くないが、未就学児の親、特に母親では比較的多い。前述した外出時の不満がこうした属性の人で多いことと関係していると思われる。

図表6 子どもと外出しやすいと思うか(就学状況別)



5. 一緒に外出したい相手

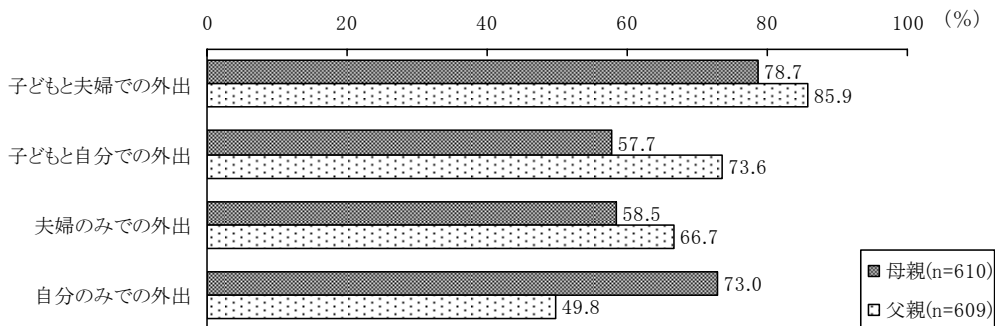
子どもと夫婦、子どもと自分、夫婦のみ、自分のみでの外出機会をそれぞれ増やしたいか、それとも減らしたいかをたずねた。

図表7の通り、増やしたい（「増やしたい」＋「どちらかといえば増やしたい」）と答えた割合は、母親では「子どもと夫婦での外出」（78.7%）、「自分のみでの外出」（73.0%）の順で高い。父親でも、割合が最も高いのは「子どもと夫婦での外出」（85.9%）であるが、2位には「子どもと自分での外出」（73.6%）があがっている。

父親に比べると母親では「自分のみでの外出」が約23ポイントも高い一方、「子どもと自分での外出」は約16ポイント低い。母親が自分だけで外出する機会を増やしたいと思う割合が相対的に高いのは、子どもと外出する機会が多い一方、単独で外出する機会が少ないためではないかと思われる。

図表8で就学状況別にみると、母親・父親ともに、子どもが小学1～3年生の場合よりも未就学児の場合の方が「子どもと夫婦での外出」「夫婦のみでの外出」「自分のみでの外出」を増やしたいと答えた割合は高いが、「子どもと自分での外出」を増やしたいと答えた割合は低い。

図表7 増やしたい外出機会



図表8 増やしたい外出機会(就学状況別)

(単位:%)

		子どもと夫婦での外出	子どもと自分での外出	夫婦のみでの外出	自分のみでの外出
母親	未就学児(n=393)	79.1	55.7	63.4	77.6
	小学1～3年生(n=205)	77.6	61.0	49.3	64.9
	差(未就学児－小学1～3年生)注	1.6	-5.3	14.1	12.7
父親	未就学児(n=387)	87.1	72.4	70.3	52.2
	小学1～3年生(n=209)	83.7	75.6	60.8	45.9
	差(未就学児－小学1～3年生)注	3.3	-3.2	9.5	6.3

注:10ポイント以上の差がある場合にはゴシック体で表示

6. まとめ ー子どもとその親の外出をめぐる課題ー

(1)ハード・ソフト両面に対する不満

子ども連れでの外出時の不満としては、ハード面ではトイレの使いにくさが最も多く指摘されていた*²。また、未就学児の親ではベビーカーでの移動しにくさも上位にあがっている。

近年、公共の空間では車いす使用者、高齢者や乳幼児などに配慮し、より多くの人を使いやすいトイレ（いわゆる“多機能トイレ”“誰でもトイレ”）の設置や段差解消に代表されるバリアフリー化が、急速に進められている。しかし、子どもやその親にとっては、まだ不十分な面が多いと考えられる。

一方、ソフト面では費用が高いという不満もあがった。何かと出費がかさむ子育て期には、外出のための費用も大きな負担になっていることがわかる。

(2)外出機会の偏り

子どもとの外出機会は、父親よりも母親の方が多い。その差は、医療機関や金融機関などレジャー性の低い義務的な場所で顕著である。男女の子育て役割の差が、子どもとの外出行動にもあらわれている。

また、子どもの就学状況別にみると、未就学児の親の外出先は、小学1～3年生の親に比べると娯楽・教養的な場所が少なく、義務的な場所や買い物・飲食などのための日常的な場所が中心となっている。子どもが幼い場合、安心して楽しめる場所が少ないことや、そもそもそうした場所に行く余裕がないことなどが背景にあると思われる。

子ども連れでの外出に不満や難しさを感じている割合は、全体的には父親より母親、小学1～3年生の親より未就学児の親で高い。また母親、特に未就学児の母親は、父親ほど子どもや配偶者との外出機会を増やしたいと思っておらず、単独での外出機会を欲している。こうした現状評価や意向の差も、親の性別や子どもの年齢によって外出頻度や外出先が異なることの結果といえるだろう。

（研究開発室 副主任研究員）

【注釈】

- *1 この調査全体の概要、および屋内における危険に関する質問項目の結果については、『Life Design REPORT』2007年9-10月号で紹介している。
- *2 筆者が2004年に実施した調査で、公共トイレを「乳幼児やその保護者が使いやすいよう整備してほしい」と答えた割合や、「おむつ替えベッド」「ベビーカー」が不可欠と答えた割合は、乳幼児がいる人では乳幼児がいない人に比べて高かった。